

出前講座と出前授業

子ども未来局では「子どもの権利」や「子どもの権利条例」についての市民の皆様を対象とした出前講座や小中学生を対象とした「出前授業」を行っています。

子ども未来局では、子どもの権利や札幌市の「子どもの権利条例(子どもの最善の利益を実現するための権利条例)」について、多くの市民の皆様を知り、理解していただくための「出前講座」や「出前授業」を行っています。

大人の方の「出前講座」では、お子さんのいる家庭だけではなく、子どものより良い成長のために社会全体が関心を持っていただくため、四コマのイラストや読みやすいストーリーを盛り込むなどの工夫を行い、新たに作成した「KenriBook(権利ブック)」の内容をもとにした解説や、地域活動への子どもの参加の事例紹介などを行います。

小中学生向けの「出前授業」では、平成25年に作成した絵本「おぼけのマールとすてきなまち」の紹介や子どもの権利に関するクイズを交えた講座です。職員が地域や学校に出向いて説明しますので、ぜひお申込みをお願いします。

- ・10人くらいのグループで、市内に会場の確保をお願いします。
- ・日程や時間などをご相談ください。



▲出前講座や出前授業の様子



子どもがきらりと輝くまちに

子どもの権利 ニュース

The Rights of the Child

第10号
平成26年3月発行

子どもの権利条例の絵本が完成!

札幌市では、平成20年に制定した「子どもの権利条例(正式名称:札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例)」を多くの市民の皆様を知っていただくよう、パンフレットの作成や啓発事業の実施など、様々な活動を行っています。

平成25年度は、幼児・小学校低学年の子どもやその保護者などの大人の方を対象として、「札幌市子どもの権利条例の絵本『おぼけのマールとすてきなまち』」を作りました。

絵本は主人公のおぼけのマールが子ども議会に招待され、札幌のすてきなまちの設計図を子どもたちと一緒につくるというものです。

札幌市内の小・中学生19名で構成される「ええほん(絵本)どーする?委員会」を2回開催し、すてきなまちの設計図の施設を考え、その内容が実際の絵本にも反映されて



▲意見交換会の様子

います。

また、絵本の完成を記念して、平成25年12月27日(金)に札幌エルプラザにおいて「ええほん(絵本)こーなつたでshow」を開催し、乳幼児の親子連れなど、約300名の方が参加しました。

イベントでは、完成した絵本の読み聞かせのほか、絵本のイラストを担当した、なかいれい氏によるトークイベント、「ええほん(絵本)どーする?委員会」のメンバーによる発表、絵本プレゼントの公開抽選会などを行いました。

絵本は1月から市内の保育所、幼稚園、小学校や児童会館などで読むことができるほか、図書館や区民センターの図書室で読んだり、借りたりすることができます。



▲イベントの様子

この絵本は書店等での販売はしていませんが、札幌市の有償刊行物として、子ども未来局(中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階)や市役所本庁舎市政刊行物コーナーで買うことができます。価格は、1冊420円(送料別。平成26年3月現在。)となっており、販売方法など詳細は、下の問い合わせ先までご連絡をお願いします。

絵本を通して、多くの方に子どもの権利や子どもの権利条例について知っていただきたいと思います。



▲絵本の表紙と内容の一部

★問い合わせ★
子どもの権利推進課
電話：211-2942

発行
札幌市子ども未来局 子ども育成部 子どもの権利推進課
〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階
電話 011-211-2942 ファックス 011-211-2943
ホームページ「子どもの権利のページ」<http://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/>
Eメール kodomo.kenri@city.sapporo.jp



札幌市
05-F01-13-1319
25-3-276

未来の大人たちへの贈りもの 中井 令

この原稿を考えている時に、詩人のまど・みちおさんが亡くなられたニュースが流れました。童謡の「ぞうさん」を知らない人は恐らくいないでしょう。その詩は 疑う余地など微塵のない絶対的信頼を持った愛情に満ち、そしてこれほど簡単明瞭に子どもの権利を謳っているものはないのではないのでしょうか。まだ国連総会で子どもの権利条約が採択されるずっと前に、まど・みちおさんはなんと素晴らしい贈りものをくださったことかと思えます。心からご冥福をお祈りいたします。

同様に、絵本にもそんな力があると信じて止まない一人です。子どもたちの根っこの部分に栄養を注ぐようなお手伝いを、絵本を通してできたらと思っています。とは言っても実は、子どもたちのほうがずっとうわ手です。絵本のおかげで子どもたちとふれあう機会もでき、その延長線上で何度か子どもたちにワークショップをしてもらったことがあります。絵本の主人公「おぼけのマール」を使って、ぬりえやミニ絵本などを制作してもらいます。その度に自由な発想でのびのびとした才能に感動するばかりです。伝えるどころか逆に教えられることの方が多いのです。子どもたちの力を信じて褒めて時にはじっと見守ることが大人の役割なのかもしれません。

絵本を読んだ子どもたちが、自分たちの生まれ育った街を好きになってもらえるように、誇りを持って大きくなってもらえるような、そしてその子どもたちが大きくなって20年30年先、さらにその気持ちがどんどん繋がって100年先も200年先もこの街を好きでいてもらえたらと思います。かつては子どもだった私たち大人は出来る範囲で努力をしていきたいですね。

この先子どもたちが大人になって何か壁にぶち当たってくじけそうになった時でも、僕たち私たちはとっても素敵な札幌のまちに育ったんだ、だから大丈夫だってそのことを誇りに思っ
て強く逞しくなってくれたらいいなと思います。みな一人一人、かけがえのない存在なのだから。



中井 令さん
(なかい れい)

イラストレーター、絵本作家。
札幌生まれ。札幌を中心に北海道を舞台にした絵本を手がけている。作品に『おぼけのマール』シリーズ(え なかいれい、ぶん けーたろう)、『ソリーくん』(さく なかいれい)などがある。



地域の取組 子どもまちづくりコンテスト開催！

平成25年度「さっぽろ子どもの権利の日」事業として、昨年11月17日に「子どもまちづくりコンテスト」を開催しました。

「さっぽろ子どもの権利の日」は、子どもの権利について市民の関心を高めるために行うもので、平成25年度は、市内で子どもに関わる活動を行っている団体が現在の活動や、今後の活動についての提案を発表し、その後意見交換を行い、お互いの活動への応援メッセージをおくり合いました。

当日は、東白石児童会館、日本ボーイスカウト札幌第24団、北野まきば町内会「北野MKY5」、石山地区まちづくり協議会青少年子ども部会のほか、特別参加として、札幌市子ども議会や、北海道内で最も早く

子どもの権利条例を制定した奈井江町子ども会議の合計6団体、延べ約150名が参加しました。

各団体からは、地域でのお仕事入門を広げる取組(東白石児童会館)、スタンプラリー形式のお祭りの開催(ボーイスカウト)、ゆるキャラによるまちのPR(北野MKY5)、「おもいやり」と「楽しい」をテーマにしたまちづくり活動(石山地区まちづくり協議会)の提案がありました。

提案発表の後の意見交換では、「この活動のここがいい」と感じたことを花型のカードに書いて木のイラストボードに貼り、それぞれが他の



取組を知り、「自分たちの活動の参考になった」「そのまちを訪れてみたい」といったことが寄せられました。

参加団体からの提案は次のとおりです。



東白石児童会館
「おしごと入門シリーズを、地域に、そして世界に広げていこう！」



北野MKY5
「子どもの住みたい町No.1を目指そう！」



日本ボーイスカウト札幌第24団
「つきさむ交流まつりをしよう！」



石山地区まちづくり協議会
青少年子ども部会「だれもが笑顔になれるまちに！」

「子どもまちづくりコンテスト」は、平成26年度も実施予定ですので、是非エントリーしてください。